

2006年3月6日

主催 (財) ミズノスポーツ振興会

共催 (財) 日本体育協会

(財) 日本オリンピック委員会

## “2005年度 ミズノ スポーツメントール賞” 受賞者決定

(財) ミズノスポーツ振興会では、(財) 日本体育協会、(財) 日本オリンピック委員会と共催で、1990年度より「ミズノ スポーツメントール賞」を制定しています。この賞は、我が国の競技スポーツおよび地域スポーツにおいて選手の強化・育成ならびに地域スポーツの普及・振興に貢献した指導者を顕彰するとともに、優秀な指導者の育成を目的に制定したものです。

3月6日、高輪プリンスホテルで2005年度選考委員会を開き、受賞者を以下の通り決定いたしました。

【ミズノ スポーツメントール賞 ゴールド】 (トロフィー、副賞200万円)

鈴木 勝彦 氏 (静岡県体育協会スポーツ医・科学委員会委員長)

【ミズノ スポーツメントール賞 シルバー】 (トロフィー、副賞各50万円)

今村 俊明 氏 (日本電産サンキョー(株)スピードスケート部監督)

持田 達人 氏 (警視庁警務部教養課 柔道指導室 柔道教師)

【ミズノ スポーツメントール賞】 (トロフィー、副賞各20万円)

安田 善治郎氏 (日本ホッケー協会普及委員会競技力向上指導部副部長 女子ユース監督)

石浦 外喜義氏 (鳥取城北高等学校相撲部監督)

江村 宏二 氏 (日本フェンシング協会理事)

里深 真弓 氏 (日本ゴルフ協会女子ナショナルチーム強化部会長)

中村 弘 氏 (山形県バレーボール協会会長)

多田 尚克 氏 (茨城県体育協会・ライフル射撃上級コーチ)

多田 信彦 氏 (福井県体育協会副会長)

山田 克己 氏 (愛知県体育協会・セーリング上級指導員)

井上 弼子 氏 (兵庫県体育協会・なぎなた上級コーチ)

詳細は別記の通りです。

(お問合せ先)

(財) ミズノスポーツ振興会 事務局

内橋

TEL. 03 (3233) 7009

ミズノ 東京 広報課

澤井・木水

TEL. 03 (3233) 7037

ミズノ 大阪 広報課

高橋・土師

TEL. 06 (6614) 8373

## 記

名 称 : 2005年度 ミズノ スポーツメントール賞

目的及び  
選考基準 : 過去継続して我が国における優秀選手の育成に務めた指導者およびその周辺の  
指導者、ならびに長年にわたり継続して地域スポーツの振興に尽力した指導者の  
顕彰

選考委員 : 委員長 竹田 恆和 氏 ((財)日本オリンピック委員会会長)  
委員 長沼 健 氏 ((財)日本体育協会副会長)  
" 泉 正文 氏 ((財)日本体育協会常務理事)  
" 石川 武 氏 ((財)日本体育協会常務理事)  
" 福田 富昭 氏 ((財)日本オリンピック委員会常務理事)  
" 田中 英寿 氏 ((財)日本オリンピック委員会常務理事)  
" 水野 正人 氏 ((財)ミズノスポーツ振興会会長 ミズノ(株)社長)  
※順不同

対象者 : 国内外を問わず我が国の競技スポーツの指導者および地域スポーツの指導者

受賞者及び  
選考理由 : 鈴木 勝彦 (すずき かつひこ) 氏 66歳

(静岡県体育協会スポーツ医・科学委員会委員長)

昭和58年に(財)日本体育協会公認スポーツドクターを取得後、平成4年から県体協スポーツ科学委員会の活動に携わり、平成17年からはスポーツ医・科学委員長を務めている。

第58回国民体育大会静岡大会で、同国体より導入されたドーピング検査に対し、全国に先駆けてアンチ・ドーピング委員会を創設し、委員長として関係団体と連携を取りながら行った教育・啓発活動は、国体後催県からの問い合わせも多く、アンチ・ドーピングムーブメントの一つの指針となった。

また、平成9年からは、水窪町体育協会(現(財)浜松市体育協会水窪支部)の会長として地域のスポーツ振興に大きく貢献した。特に、平成16年からは日本体育協会の総合型地域スポーツクラブ育成指定クラブとして、町民が楽しく気軽にスポーツができるよう「みさくぼスポーツクラブ」の設立に向け、クラブ代表者として取り組んでいる。

今村 俊明 (いまむら としあき) 氏 43歳

(日本電産サンキョー(株)スピードスケート部監督)

スピードスケート選手としてサラエボ冬季オリンピック出場。その後、スピードスケートの指導者として、主に日本大学及び日本電産サンキョーで多くの優秀選手を育成。現在活躍中の吉井小百合、大菅小百合、長島圭一郎選手等も同氏の指導のもとで頭角を現し、加藤条治選手を含め、4名の日本代表選手をトリノ冬季オリンピックに送り出す。

※指導している主な選手・チーム

黒岩 敏幸 '92アルベールビル冬季オリンピック 男子500m 2位

井上 順一 '92 アルベールビル冬季オリンピック 男子 500 m 3 位  
清水 宏保 '98 長野冬季オリンピック 男子 500 m 1 位  
加藤 条治 '05 世界新記録樹立 男子 500 m 34 秒 30

**持田 達人 (もちだ たつと) 氏 40 歳**

(警視庁警務部教養課 柔道指導室 柔道教師)

選手として世界選手権大会 2 位等の優秀な成績を残した後、平成 8 年よりジュニア強化コーチ、12 年からはジュニアヘッドコーチとして、ジュニア、高校、中学選手の強化育成に携わる。

平成 16 年からは、全日本強化コーチとして日本代表強化を担当し、'04 世界選手権大会では、鈴木桂治選手や泉浩選手の担当コーチとして、金メダル獲得に大きく貢献。警視庁では、棟田選手を始め多くのトップ選手を指導。

指導力抜群で、今後の柔道界の中心を担うことが期待されている。

※指導している主な選手・チーム

鈴木 桂治 '05 世界選手権大会 男子 100kg 級 1 位  
泉 浩 '05 世界選手権大会 男子 90kg 級 1 位  
棟田 康幸 '05 世界選手権大会 男子 100kg 超級 2 位

**安田 善治郎 (やすだ ぜんじろう) 氏 59 歳**

(日本ホッケー協会普及委員会競技力向上指導部副部長 女子ユース監督)

日本女子ホッケー初のオリンピック出場にナショナルチーム監督として卓越した指導力を発揮。その後は、日本ホッケー協会強化部ユース監督としてオーストラリア遠征、競技力向上指導部副部長として、日本各地を指導巡回し、ユース、ジュニアユース指導に専念して、次代のオリンピック出場選手発掘に努めている。

※指導している主な選手・チーム

'04 アテネオリンピック出場 16 選手

**石浦 外喜義 (いしうら ときよし) 氏 44 歳**

(鳥取城北高等学校相撲部監督)

鳥取城北高校着任以来、相撲部の顧問として抜群の指導力を発揮し、琴光喜を始めとして、プロ・社会人・大学生・高校生等、全国で活躍する多くの選手を育成。

高校生の大会では、高校総体 2 位が 2 回、3 位が 6 回、国体では団体優勝 2 回、個人優勝 2 回等の優秀な成績をあげている。特に、第 60 回おかやま国体では、少年・成年 B で優勝、成年 A で準優勝、競技別総合優勝に導いている。

※指導している主な選手・チーム

田宮 啓司 (琴光喜) '93、'94 世界選手権大会 団体 1 位 個人重量級 1 位  
境澤 賢一 '01 世界ジュニア選手権大会 団体優勝  
森 友樹 '02 世界ジュニア選手権大会 団体優勝  
木村 雄 '04 世界ジュニア選手権大会 団体優勝  
山口 雅弘 '05 全国高校選手権大会 個人優勝

**江村 宏二 (えむら こうじ) 氏 44 歳**

(日本フェンシング協会理事)

ナショナルコーチ・監督として、太田選手他を育成し、オリンピック出場やワールドカップ優勝などを果たした。監督として参加した'05 ユニバーシアード競技大会に

においても、男子フルーレ団体優勝等の成績をあげた。

※指導している主な選手・チーム

太田 雄貴 '04 アテネオリンピック出場  
菅原 智恵子 '04 アテネオリンピック出場  
福田 祐輔 '05 ユニバーシアード競技大会 1位  
池端 花奈恵 '05 ユニバーシアード競技大会 3位

**里深 真弓 (さとふか まゆみ) 氏 55歳**

(日本ゴルフ協会女子ナショナルチーム強化部会長)

過去に日本女子アマに17回出場、日本代表として海外でも活躍。その経験から、平成4年より日本代表キャプテンとして多くの選手を海外大会へ引率。

平成11年にはJGA女子ナショナルチーム委員長に就任。JGAポイント制を導入して選手選考システムを構築、現在女子プロゴルフ界を牽引する宮里、横峯、諸美里選手らを発掘し、世界で通用するレベルにまで育成強化。

また、世界女子アマゴルフ優勝を目標に、教養面・精神面の強化を軸とした選手育成プログラムを合宿に導入するなど、世界で戦えるチーム作りに着手。

※指導している主な選手・チーム

宮里藍、諸見里しのぶ、横峯さくら、上原彩子、古閑美保、古屋京子等を指導  
'04 世界女子アマチュア選手権大会 4位  
'02 アジア競技大会 団体2位 宮里 藍1位

**中村 弘 (なかむら ひろし) 氏 73歳**

(山形県バレーボール協会 会長)

中学・高校のコーチや社会人バレーの監督・選手として活動する一方、県内外の競技団体、体育協会の要職を歴任し、現在も各団体において、組織化や指導・普及に情熱を傾け活躍している。

国際大会の審判員としても活躍し、各種国際大会、国民体育大会、インターハイ等の多様な競技大会の企画運営に携わり、その卓越した手腕を発揮するなど、幅広い分野でのスポーツの発展と振興の充実に尽力してきた。

ママさんバレーの組織整備にも尽力し、また、社会人バレーにおいては、冬季の練習不足と勤労青少年へのバレーボールの浸透を図ることを目的として、「山形市社会人ナイターバレーボール大会」を創設した。同様の大会が以後各市でも開催され、その集大成としての「山形県社会人選抜優勝大会」は多くの協賛を得、テレビ放映も行われている。

**多田 尚克 (ただ なおかつ) 氏 64歳**

(茨城県体育協会・ライフル射撃上級コーチ)

地元の小学生や中学生を対象としたビームライフル射撃教室の開催や、競技への関心を高めるために小学校への訪問指導を実施するなど、ライフル射撃の魅力を伝える活動を、地道に、熱心に続けている。

選手一人ひとりに合わせた丁寧かつ的確な指導には定評があり、日本のトップレベルの選手も含め、多数の優秀な選手を輩出している。また、地元茨城国体前年度となる第28回千葉国体では茨城県チームを優勝に導くなど、監督としても手腕を発揮し、茨城県のライフル射撃競技の礎を築いてきた。

茨城国体の会場となった県営ライフル射撃場の管理・運営の主体としても活躍しており、大会開催後32年間が経過する当施設が、今なお県ライフル射撃競技の中心地

であり続けている原動力となっている。

**多田 信彦（ただ のぶひこ）氏 64歳**

**（福井県体育協会副会長）**

高校、大学での指導のかたわら、地元のスポーツ少年団「松岡ミニバスケットクラブ」での活動を、立ち上げ時から長年にわたり続けている。

また、平成11年の福井県生涯スポーツ団体協議会設立に大きく貢献し、2004 スポレク福井を成功に導いた。公認スポーツ指導者制度発足（福井県発足：昭和56年）当時から、公認スポーツ指導者制度の確立及び発展に貢献し、顕著な功績が認められる。

福井県スポーツ指導者協議会においては、昭和56年の発足時から、理事長14年、会長10年を歴任し、平成17年より顧問を務めている。

指導者として、また県競技団体、県体育協会並びに県の生涯スポーツ関係団体の役員として、長きにわたり福井県スポーツ界のために尽力しており、現在、福井県体育協会副会長の要職を務めている。

**山田 克己（やまだ かつみ）氏 61歳**

**（愛知県体育協会・セーリング上級指導員）**

長年にわたり、碧南ヨットクラブでヨット競技の指導者として選手を育成するかたわら、碧南市体育協会の役員として、また愛知県ヨット連盟の選手強化委員長としてヨット競技の普及と選手の強化に携わり、国体を始めとする愛知県選手の育成に尽力している。また、クルーザー部門においても数多くの国内外のレースに出場し、選手として、或いは指導者として多くの選手を指導した功績は顕著である。

碧南ヨットクラブには、現在小学生から中高年者まで所属しており、高校生中心であった設立当初から、生涯スポーツの振興を担う地域のクラブとして大きく成長を遂げている。

また碧南市制40周年イベントとして、小笠原諸島にある針之岩に中部山岳会との共同登頂を計画、引率し、日本初となる登頂に成功するなど、生涯をヨットに捧げた、冒険者としての一面も併せ持っている。

**井上 彌子（いのうえ のりこ）氏 65歳**

**（兵庫県体育協会・なぎなた上級コーチ）**

明石市錦城コミュニティセンターにて、小学校低学年から高齢者まで幅広い年齢層に、基本に沿い個々に合った指導方法の工夫を試み、皆が楽しんで続けられるよう生涯教育としてなぎなたを指導している。選手としても数多くの大会に出場する一方、絶えず全日本なぎなた連盟の研修会や講習会に参加し、自己研鑽に励み、現在もH18年の「のじぎく兵庫国体」の少年指定選手と共に稽古に励み指導に当たっている。現在、明石市なぎなた協会及び兵庫県なぎなた連盟の理事長の重責を担って会員全体の和に努め組織発展のために努力している。

ただ勝つためだけのなぎなた競技ではなく、先ず好きになって、楽しく続けられる生涯スポーツとして、一貫した指導体制のもとなぎなたの向上、発展に努力することが、自分に課せられた「生涯勉強」と心がけている。

以上